

49 湛水直播栽培を導入した担い手組織の経営モデル

福島県農業試験場経営部・平成12年度農業試験場試験成績概要

- 1 部門名 農業経営－農業経営－地域農業計画 分類コード 15－01－57607559
2 担当者 岡本和夫
3 要 旨

会津高田町八木沢地区での湛水直播栽培の担い手組織が、作業受託組織から借地による経営体となった場合を想定した経営モデルを作成し、収益性等の検討を行った。

(1) 担い手組織の平成12年度作業受託実績から収益を試算した。現状では、所得が118.6万円であった。組織の所有機械での作業可能面積からの所得は357.5万円であった。

(2) 担い手組織が借地で水田作経営を行う経営体と想定し、現構成員の所有水田を自作地、現在の作業受託面積21.5haを経営面積上限として試算した。平成12年の状況下では、直播コシヒカリ6.67ha、大豆14.83haの作付のとき最も所得が高かった。その際には、粗益2,643.6万円、経営費1,584.6万円、所得1,059万円、年総労働時間1,525.5時間と試算された。

(3) 担い手組織は直播コシヒカリ13.93ha、直播ひとめぼれ5.13ha、大豆14.83haの33.89haまで規模拡大することが可能であると試算できた。その際には、粗収益4,212.3万円、経営費2,570.5万円、所得1,641.7万円と試算された。

(4) 担い手組織は、作業受託組織から借地による経営体となることで、所得の増額を図ることが可能と考えられた。地域に水田作経営の核となる組織がある場合の土地利用の展開方向の一つと考えられた。